

令和六年八月二十五日(日)

午後一時三十分開演

挨拶

能楽解説 辰巳 満次郎

〔仕舞〕

八 島

敷 克徳

内藤 飛能
小倉 健太郎

吉野 静

辰巳 和磨

高橋 憲正
金野 泰大

惣 八

山本 則重

山本 則孝
山本 則秀

後見 若松 隆

〔能〕

船 弁慶

後之出留之伝

子方 宗形 龍之介
シテ 宝生 和英

ワキ 館田 善博
ワキツレ 則久 英志
ワキツレ 渡部 葵

間 山本 泰太郎

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 曾和 伊喜夫
大鼓 大川 典良
笛 藤田 貴寛

後見 東川 尚史
田崎 甫

金井 賢郎
辰巳 和磨
金野 泰大
内藤 飛能
高橋 憲正
辰巳 満次郎
小倉 健太郎
敷 克徳

あらすじ

狂言「惣 八」

ある有徳人（裕福な人）が、出家と料理人を雇おうと思
い募集をします。そこでやって来た出家は、実は最近まで
料理人をしていたので、浮世をむなしく思い出家になっ
たばかりでした。また同じくやって来た惣八は、もとは出
家でしたが、朝夕の勤めや檀家との付き合いが面倒になり
料理人になったばかりでした。
無事採用されそれぞれ仕事を言いつけられた二人ですが、
どちらも新米の身、なにやら勝手が違う様子。そこで二人
は良いことを思いつきますが……。

能「船弁慶」

兄・源頼朝と不和になり、追討軍を差し向けられる悲
運に陥った義経は、都落ちを決意して、弁慶以下十余人で
人目を忍んで、摂津の国大物の浦に着きます。弁慶はかね
て談合してあつた船頭に舟を頼みますが、一行の中の静御前
を都に帰すように計らい、静は泣く泣く同行をあきらめま
す。門出に近づき弁慶は白拍子※の名手である静に舞を乞
います。

やがて義経一行の舟は静を残して出て行きます。沖合い
はるかに進んだ頃、黒雲が出たかと思うと、忽ち一転暗く
波は大きく荒立ちます。すると西海に滅びた平家の一類と
思しき人影が波間に浮かび、中にもおどろの髪を振り乱し
甲冑を帯した平知盛の幽霊が、潮を蹴立てて近寄ります。
義経は少しも騒がず応戦し、弁慶も調伏すれば、さしもの
悪霊も恐れて遠ざかるところを、舟子どもはいいやいや
と漕ぎ急ぎ、危うく虎口を脱するのでした。

※ 平安時代末期から鎌倉時代にかけて流行した歌舞の一種。

小書 後之出留之伝

「小書」とは能の特殊演出のことをいいます。宝生流に
よる小書「後之出留之伝」は、文字通り後シテの出と、
終わりの型が変わり、舞の途中で義経を
見て泣く型があります。



会場

相模女子大学グリーンホール

(相模原市文化会館)

(小田急線「相模大野駅」北口より徒歩約8分)
〒252-0303 相模原市南区相模大野4-4-1
<https://hall-net.or.jp/01greenhall/>



お客様へのお願い

相模女子大学グリーンホールでは、2020年
10月より隣接地にて建築工事が行われてい
ます。騒音等による影響がある可能性がござ
いますので、予めご了承いただきますよう、お
願いいたします。

さがみはら
相模原市 70
市制施行70周年 ANNIVERSARY

お問合せ

公益財団法人 相模原市民文化財団

☎ 042-749-2207



ホームページでも情報を配信しています。

相模原市民文化財団

検索



@Sagami_BUNKA